

脳神経外科のこの1年（平成8年1月－12月）

脳神経外科医長 中井啓文

平成8年の患者数、手術件数についてみますと、表のように外来新患数1637名、入院患者数307名で例年と同じ傾向でした。また入院患者数307名のうち救急車で入院したものは179名で全入院患者数の半数以上を占めており、例年より多かったようです。紹介状を持って入院された患者数も137名で例年より多い傾向でした。入院後の転院患者数は95名で全入院患者数の1/3を占めており、例年と同じ傾向でした。治療が効を奏せず残念ながら死亡された患者数は22名で、疾患別内訳は脳出血8、くも膜下出血5、脳梗塞4、頭部外傷4、脳腫瘍1でした。

表のように手術件数は114件で、例年と同件数でした。内訳は脳動脈瘤クリッピング23件、脳腫瘍・脊髄腫瘍摘出術9件、開頭による血腫除去術11件、減圧開頭術8件など、開頭術が半数を占めており例年と同じ傾向でした。今年も関連部門の方の御協力で、術中モニタリングを28件行うことが出来、術中脳虚血の防止、脳神経の温存に有用でした。

表のように救急車で入院した患者179名の居住地別内訳は、名寄市立総合病院の狭義の医療圏すなわち名寄58名、下川17名、風連14名、美深11名で計100名で半数以上を占めています。これは他の地域とは異なり、頭部外傷、脳血管障害がスクリーニングされずに病状、重症度に関わらず搬入されてくるものと思われます。名寄市立総合病院の狭義の医療圏の外からは、南は和寒、北は幌延、浜頓別からも患者さんが送られてくるのがわかります。さらに道内、道外の方がたまたま名寄の近くで頭部外傷、脳卒中になり搬送されているのもわかります。名寄市立総合病院の狭義の医療圏外の患者さんは、CTでスクリーニングされてくるので重症の患者さんがほとんどです。因に居住地土別の患者さん24例のうち17例が脳神経外科の手術を受けました。

今後の地域に根差した名寄市立総合病院脳神経外科の展望を述べてみたいと思います。表の平成4年からの患者数の変遷を見ると、入院患者数が年間300例はあることから、現在急性期14ベッ

平成4年開設以来の患者数の変遷

	平成4年（6月～12月）	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
外来新患数	974	1656	1678	1548	1637
入院患者数	143	274	295	268	307
他医の紹介状あり	46	102	104	93	137
救急車で入院	51	84	119	123	179
転院患者数 （外来よりの直接転院含まず）	45	114	95	85	95
死亡	19	22	27	31	22
手術件数	60	150	114	109	114

ド、慢性期5ベッド計19ベッドで診療を行っていますが、あと10ベッド増えて30ベッドあったほうが、地域の人々が安心して脳卒中、頭部外傷の治療が受けられる体制が出来るものと思われま

す。
平成8年の脳神経外科の医者の異動は4月から橋本学君から田村康夫君に変わり、従来どうり3名体制で中井啓文、川田佳克、田村康夫で行いました。

顔面神経誘発筋電図 (聴神経腫瘍1)	1件
脳表導出誘発電位(MAP電極)モニタリング	3件
SEP	2件 (腫瘍2)
VEP	1件 (腫瘍1)

平成8年度脳神経外科手術件数 (1月—12月)

1) 総数 114件(同日複数部位手術は1件とした)	
全麻	7件
局麻	37件
2) 内訳	
脳動脈瘤クリッピング	23件
破裂脳動脈瘤	19件
未破裂脳動脈瘤	4件
脳腫瘍・脊髄腫瘍摘出術 (脊髄腫瘍1, Hardy's OP1を含む)	9件
(glioma2, meningioma2, pituitary adenoma2, acoustic neuroma1, sarcoma1, metastasis1)	
開頭による血腫除去術	11件
急性硬膜外血腫	1件
急性硬膜下血腫	4件
急性脳内血腫	6件
減圧開頭術	8件
頭蓋形成術	15件
V-P shunt 術	14件
定位脳手術による脳内血腫吸引ドレナージ術	6件
慢性硬膜下血腫穿頭術血腫除去術	26件
脳室ドレナージ術	4件
硬膜下膿瘍洗浄ドレナージ術	1件
3) 術中モニタリング	28件
SEPモニタリング	24件
(脳動脈瘤22、脳腫瘍1、脊髄腫瘍1)	
ABRモニタリング	1件

救急車で入院した患者の居住地別内訳 (平成8年1月—12月)

総数	179名
名寄	58
士別	24
下川	17
風連	14
美深	11
雄武	8
興部	6
歌登	5
枝幸	5
浜頓別	4
中頓別	4
西興部	4
音威子府	2
朱鞠内	1
和寒	1
朝日	1
幌延	1
紋別	1
北見	1
札幌	4
東京	1
神奈川	1
秋田	1
沖縄	1